

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年3月6日

公表: 令和6年3月13日

事業所名 川越市児童発達支援センター

チェック項目		はい	いいえ	未回答	工夫している点、課題・改善点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	46.9%	20.3%	32.8%	・廊下にバギーが置ききれない時もあり通路が狭くなってしまう。	物理的に広くなることは難しいので、クラス同士での情報共有やスペースの確保のための工夫などで、スペースを有効に使うように努めます。
	2 職員の配置数は適切である	51.6%	23.4%	25.0%	・日によって(子どもの様子等)難しい日もある。 ・産休代替がいません。 ・欠員の所の補充がされていません。 ・クラスの人数は足りているが休みや給食補助の人がもう少し居ると助かります。	・タイムラグはありましたが、補充できました。 ・休みや給食補助の運用については、検討するように努めます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	76.6%	0.0%	23.4%		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	75.0%	0.0%	25.0%	・職員は上履きを履いているが子ども達は素足なので清潔とは思えない部分もある。	センター内の清掃については、清潔を保てるように努めます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67.2%	1.6%	31.2%	・改善に向けた取り組みがされているのか不明。	PDCAサイクルを意識した業務改善に職員が参画できるよう努めます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	68.8%	7.8%	23.4%	・わからない。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	57.8%	1.6%	40.6%	・わからない。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	57.8%	9.4%	32.8%	・本来毎年するものなのかわからない。 ・評価結果を聞く機会がない。	定期的な施設監査はありますが第三者による外部評価は現時点では行っておりません。今後検討していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	76.6%	0.0%	23.4%	・保育士会研修や職員研修を動画であるが受ける機会をつくってもらっている。	実施方法や内容を検討し、引き続き、職員の資質向上に努めます。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	73.4%	0.0%	26.6%		
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	71.9%	1.6%	26.5%	・公的なアセスメントの利用は一部のみ。	児童発達支援計画の作成、計画に沿った支援の実施のためのアセスメントツールを使用しています。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	73.4%	0.0%	26.6%		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	73.4%	0.0%	26.6%		

	チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点、課題・改善点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	73.4%	0.0%	26.6%	・クラス単位で行っている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	71.9%	1.6%	26.5%	・流れが同じのほうが安心するお子さんもいる。 ・個々の特性の理解は大切だが、いろいろな活動や道具に触れる機会をもっと多くてよい。工夫していくとよい。	引き続き、子ども一人ひとりの特性に応じた活動プログラムの工夫をしていきます。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	65.6%	7.8%	26.6%	・職員の配置人数によって子どものペースに合わせきれないことがある。	引き続き、子ども一人ひとりの特性に応じた支援計画の作成をしていきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	73.4%	0.0%	26.6%		
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	73.4%	0.0%	26.6%		
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	73.4%	0.0%	26.6%		
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	73.4%	0.0%	26.6%		
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	65.6%	0.0%	34.4%	・児発管が出席している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	65.6%	6.3%	28.1%	・わからない。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	65.6%	0.0%	34.4%		
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	73.4%	0.0%	26.6%		
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	67.2%	0.0%	32.8%	・該当する子がいない。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	75.0%	0.0%	25.0%		
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	65.6%	6.3%	28.1%	・両方の事業所で連携するための時間がない。	相談支援担当職員やリーダー以上で連携していますが、今後は現場も連携できるように努めます。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	82.8%	0.0%	17.2%	・交流保育がある。 ・もう少し回数が増えるとうい。	令和5年度より保育所との交流を再開しました。

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点、課題・改善点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	40.6%	39.1%	20.3%	・コロナで出来ずにいる現状である。 ・わからない。	管理職が必ず参加していますが、今後は内容についてセンター内で情報共有するよう努めます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	76.6%	0.0%	23.4%		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	56.3%	20.3%	23.4%	・親子登園を通して行っている。 ・ペアトは実施されていません。	今後実施へ向けての準備を開始します。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	56.3%	0.0%	43.7%	・わからない。見たことがない。	入園準備説明会や年度途中の入園の際に行っております。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	73.4%	0.0%	26.6%		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	75.0%	0.0%	25.0%		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	75.0%	0.0%	25.0%		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	76.6%	0.0%	23.4%		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	73.4%	0.0%	26.6%	・おたよりで発信している。	引き続き、毎月発行しているおたより等で発信するよう努めます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	76.6%	0.0%	23.4%	・持ち帰り禁止を守っている。	引き続き、個人情報の取り扱いには細心の注意を払ってまいります。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	76.6%	0.0%	23.4%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	28.1%	45.3%	26.6%	・コロナでしたので出来ない現状。 ・行事などはまだ地域の方と関わる機会はありません。	少しずつ実施できるように努め、地域に開かれたセンターとなるように努めます。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	76.6%	0.0%	23.4%	・マニュアルを基にクラス的位置により更に工夫できることはないか話し合っている。	引き続き、様々な状況を想定しての訓練の実施に努めます。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	76.6%	0.0%	23.4%			
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	75.0%	0.0%	25.0%	・毎朝子どもの様子を共有している。	今後も入園前、入園後の個別面談等に子どもの状況を保護者から聞き取り、しっかり把握したうえで毎朝の子どもの状況確認をしっかりと行ってまいります。	

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点、課題・改善点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	76.6%	0.0%	23.4%		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	62.5%	12.5%	25.0%	・朝礼で共有している。 ・活用も共有もされていないと思う。	ヒヤリハット事例の蓄積と情報共有に努めます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	76.6%	0.0%	23.4%	・研修はある。	虐待防止研修を年1回以上実施しております。引き続き研修の機会を確保し、適切な対応に努めます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	75.0%	0.0%	25.0%		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。